



令和 4 年 3 月 1 日 第 169 号
 発行者 なごやかクラブ連合会
 名東区上社二丁目 50 番地
 電話 052-778-3099
<http://kurouren.chu.jp/>



私の昭和 私の昭和時代



目 次 (学区は建制順・作者は 50 音順)

名東学区 …………… 2・3 頁	
紅葉の美しい時期になりました	池田 節子
自然が友達、私の昭和	加藤 守
私の昭和は暗かった	鈴木 彰
三角乗り自転車	横山 一郎
高針学区 …………… 3・4・5 頁	
昭和の回想	安藤 登
おやじの教え	加藤 誓
昭和の思い出	武田 一郎
宇高連絡船	武田 敬子
困った子ねえ	田村久美子
藤が丘学区 …………… 5 頁	
懐かし我が家の TV チャンネル権	山崎やよい
香流学区 …………… 5 頁	
私の昭和時代	竹内 勝彦
私の昭和、縁故疎開	安福 勇夫
蓬来学区 …………… 6 頁	
私の国民学校時代	岩佐 良男
極楽学区 …………… 6・7 頁	
私の昭和、環境について	加田正比古
私の昭和、私の昭和時代	日比野昌弘
上社学区 …………… 7 頁	
私の昭和時代	杉本 仁彦
豊が丘学区 …………… 7 頁	
私の昭和	岡本 稔子
平和が丘学区 …………… 8・9 頁	
忌々しきクォーター (人生 1/4)	利光 陸三

前山学区 …………… 9・10 頁	
私の昭和時代、昭和と共に!	大川 成子
私の昭和時代	森下 俊勝
山の講	山口 啓三
牧の原学区 …………… 10・11 頁	
昔遊びの会	
牧の原小 1 年生の皆さんへ	石川 紘一
私の生き方の鑑は母	白川 淳子
私の昭和、カムカムエヴリバディ	中嶋 朱美

エッセイ応募の御礼

テーマ「私の昭和・私の昭和時代」への応募大変有難うございます。
 今回は、昨年を大きく上回り 24 名の作品投稿を頂きました。
 拝読いたしますと、私達は「昭和」に生を受け、以降の「昭和時代」が如何に激動の時代であったか? 作品の中から察する事が出来ます。
 幼少時代、先の大戦、疎開、復興、激動、遊び、自然、家庭、親子等のエピソードを作品として、投稿頂きました。
 「昭和の時代」を懐かしく、楽しく、面白く、厳しく想い起こして感銘を受け、拝読いたしました。
 皆様の応募に感謝を申し上げます。
 健康福祉部長 加藤 守

「私の昭和・私の昭和時代」の 24 点の作品は、個々の作品を画面に呼び出して、スマホで読むことが出来ます。
 広報部



紅葉の美しい時期になりました

なごやか名東 池田 節子

東山公園から見える木々の紅葉は素晴らしいです。アイスクリームを食べながらベンチに座って、赤黄茶緑色の木々を見ました。若い人々、ご家族の皆様(夫婦・幼児)等々、沢山の方々にまじって楽しい時間を過ごしました。私共2人は80代ですので、久し振りに若者達の中に入れて頂きました。紅葉の景色はテレビに写されて出てくるのを見ていましたが、実際に東山の自然の中を見て感激致しました。私は長野県出身です。景色は美しい山畑木々をいつも見る事が出来ました。名古屋市内に住みまして(高社)東山公園に入りまして、長野県の紅葉を思い出しました。名古屋市内に住みまして(高社)地下鉄に乗って栄、名古屋駅へ行く便利さになれますと自然の美しさにひたる暇がありません。東山公園に入りまして、こんなに美しい紅葉景色を見まして、あらためて感激致しました。

自然が友達、私の昭和

なごやか名東 加藤 守

猪高村(後の名東区)に生まれ、昭和の人生がスタートした。当時小学校高学年は、約4キロの距離を夏の暑さ、冬の寒さも本校通学である。授業態度は、至って真面目、飼育部と児童会で活躍したのである。

ウサギに山羊も飼育し、小鳥の世話が日課である。

だが下校は、ルートから外れ丘陵に分け入り浅瀬の川を渡り、田圃のあぜ道を通って帰るのである。

この頃から野山に興味と探検心が芽生えたのか。娯楽のないこの時代は、気の合う仲間達と季節の自然と遊ぶ場所を求めたのである。

子供ながらに見つけた場所は、秘密の遊び場所となり、冒険心を満足させた。家の手伝いで野山に畑に出掛け、そこを拠点に更に奥地に入り、探検出来た事は、自分達の冒険心を満足させ、明日は、次は何処へと目指し、悪ガキ隊の出動となる。

下校後、休みを利用して探検に出掛けて見つけた秘密の場所は、新しい風景として子供心に満足感があった。秋は、食べ物が豊富となり、おやつ定番は芋か柿になり、野山も野イチゴ、イチジク、ザクロと自分達で調達して、笹で秘密小屋をつくり食するのである。小屋は仲間と情報交換の場でもある。秋の恒例アケビ取りである。木に登り、蔓にぶら下がり熟したアケビを採るのである。

当時、甘さを味わえる貴重な食物であり、種の吹き飛ばしは快感。親にアケビ採りがすぐばれ全員口の端が真っ黒。

「あー楽しからずや」自然相手の遊びを体験出来た



事、田舎に生まれ育った事である。

今、名東区も大きく変貌し、様変わりであり当時を偲ぶ事は困難である。山は、丘陵は、削られ自然の風景が変わり昔の風景を見つける事は困難。近くを通る度、面影が残っていないか、昔の体験が思いだされ、一緒に遊んだ仲間達ももう高齢者となり、野山を駆け巡り、自然との遊びを懐かしく思いだし、「探検ごっこ」の昭和の時代が懐かしく思いだされる。

私の昭和は暗かった

なごやか名東 鈴木 彰

私は、昭和31年生まれの65才。昭和53年、東京の法政大学を卒業した。在学中にオイルショックが発生し、深刻な就職難となった。私は都立高校の教員を志望したが、それまで、でもしか先生と言われていて、教員のなり手が少なかったのが、一気に志願者が増えて倍率が上がり、不合格になった。私は大都会が好きで東京に残りたかったが、就職先が決まらず、都落ちして、父親の縁故で、名古屋の会社に入れてもらった。職種と性格が合わず、何とか努力はしたが、評価は低かった。昭和62年にお見合い結婚したが、最初から最後まで、恋愛感情がわからず、翌年離婚した。ほぼ同時期に会社が経営難になり、真っ先にリストラされてしまった。夢を描いて社会人になった社会人最初の10年は、昭和最後の10年で、その10年間は決していい10年ではなかった。リストラに怯え、新婚胃かいように悩まされ、両親との絶縁が始まった10年であった。昭和天皇が亡くなり、年号が平成に代わった時、何かいい事はないかな、と大いに期待したことを覚えています。

三角乗り自転車

なごやか名東 横山 一郎

終戦直後、私は、家族の疎開先であり、母の実家の近くの春日井市の借家で生まれた。父が戦地から戻った翌年のことだ。おやつが、きゅうりやトマトの時代。小学校入学の記念にと、大叔父が私に自転車を買ってくれた。ただ、その当時はまだ子供用自転車がなく、三角フレームが両輪をつないだ大人用のものだった。身長が1メートルにも満たない子供がまたいで乗れる高さではない。三角フレームの間に片足を突っ込んで、ペダルをこいで、前に進もうとしても、当然のことながら、1メートルも進まないうちに直ぐに転んだ。幸いその当時は、道はまだ舗装されておらず、土と草の生えた



ところばかりで、転んでもそれが適度なクッションになって不思議とケガはしなかった。

また車もほとんど走っていなかった時代だったので、交通事故にまきこまれる心配はなかった。転んでは、起き上がり、自転車を起こして、また片足をペダルに乗せる。そしてまた転ぶ、その連続だった。

そして、私が小学3年生の時に、親の仕事の関係で名古屋に引っ越した。ただ、転居先の小中学校は家の近くにあったため、自転車に乗る機会はなくなっていった。高校は自転車通学できる距離が自宅前の道路を挟んだ先からだったので、ますます自転車に乗る機会は遠ざかっていった。進学した東京の大学、勤務先は地下鉄で通えたため、自転車のお世話にはならないまま定年をむかえた。退職後、電動アシスト自転車を買った。坂の多い名東学区では電動自転車でない息が続かないからだ。その自転車は、女性でもスカート姿で乗れるタイプで転ぶ心配もない。

ただ、補助車の付いたのもある今の幼児用自転車をみるにつけ、転んでは、起こして乗った三角乗り自転車の頃の自分が懐かしく思い出される。

昭和の回想

新喜会 安藤 登

昭和は激動の時代と云っても過言ではないでしょう。苦しい事や嬉しい事、楽しかった事など印象に残っている事を振り返ってみましょう。

少年時代はまさに戦時下であり、政治、教育、生活には大きな制約があり、国の方針に逆らうと非国民と云われ、「贅沢は敵だ」「欲しがりません勝つ迄は」等の標語を思い出します。

その内に本当に空襲が始まり、学童疎開から中学へ通学のため市内へ戻ってからが大変でした。中学合格発表の日、互に喜び合った友人がその夜、爆死したのはショックでした。特に大型爆弾攻撃がすぐ防空壕の中で大地震の如くゆれました。大編隊のB29が始めは夜間 1万mの高度が段々と昼間 4km位迄下げ、連日続きました。終戦の日は残念なものと安心して眠れるのと複雑な感じでした。

嬉しかった事はマイカー族になった時です。通勤は市電、国鉄を乗り次いで、およそ自動車は会社業務用のみで、高度成長のお陰で三種の神器、テレビ、冷蔵庫、洗濯機が家庭に具わった頃、やっとトヨタがパブリカを発表したからです。独特の空冷エンジン音が帰宅時、よく聞こえて来ると家人に云われました。楽しかった事は当時、家庭や隣近所や会社内なども人情味豊かで、一致協力する姿勢がよく見られました。

例えば社内運動会では部毎で各種競技を競う為、



各課で担当を割当て「なんでも一番〇〇〇」のスローガンの下、玉入れも最大数入れるベスト方法を、大人が真剣に討議練習をする等、今から思えば笑い出す様な一コマがありました。

今はコロナ禍でとかく暗い面が目につきますが、苦しい事を経験すればこそ、将来楽しい事が倍加するものだと信じようではありませんか。

おやじの教え

福寿会 加藤 誓

おふくろの包丁の心地よい音で目が覚めた。

そうだ、今日は中津川市制記念運動会の日だ。

既に外は明るくなっていた。天気だ。

昭和27年5月 私が8歳で、6歳と4歳の弟も気合が入っていた。

我が家は南小学校学区の応援団を引き受けて2回目である。衣装は おふくろが縫った羽織と袴、おやじが作った大学角帽とメガネと髭、日の丸の扇子、そして大きな高下駄である。

おやじを先頭に3人兄弟のチャチャチャ、チャチャチャの「三三七拍子」に合わせ、南小学校学区チームの笑いの応援が運動会の会場に響きわたる。少し恥ずかしい子供心も次第に快感になってゆく。時折、夢に出て来る場面である。



幼い時のおやじとの一番の思い出であり、おやじの一番の教育でもあった。

今日は、名東区なごやかクラブの「長島温泉芸能大会の日」である。演題は、「東京の花売り娘」で余興衣装は古着を加工し フラダンス風に 女房に作ってもらった。舞台裏で出番を待つ時は、恥ずかしさと 興奮の入り混じった心地良い状態である。歌が始まった。さあ、出番だ。観衆の大きな笑いと声援に後押しされ というと格好いいが、私自身の喜びの爆発である。即興の踊りを演じ切れた。おやじの教えを また 実行したことを天に向かって報告した。



「三つ子の魂 百までも」

昭和の思い出

福寿会 武田 一郎

昭和35年、初めてコンピュータに出会いました。当時のコンピュータは真空管式で大きさは学校の1クラス位ありました。

当時、キーボード入力出来ない為、データ及び

プログラムは全てパンチカードで作成しコンピュータへ入力していました。

記憶容量が4096キロバイトで今のコンピュータの1/1000でした。記憶容量が少ないので、計算途中で一旦パンチカードに出力して、再度入力して計算処理をしていました。

計算結果が出ると算盤で確認をするという今では考えられない時代でした。



その後、半導体のコンピュータが製造される時代になり、今日のパーソナルコンピュータ（パソコン）へ発展して来ました。

今では小学生から大人まで生活には欠かせないものになっています。例えば、学校の授業を在宅でズームを通しての受講や、新幹線は時速300Kmでしかも3分間隔で運転しておりその安全システムにはコンピュータが絶対必要です。

コンピュータは現在あらゆる分野で利用されています。基本原理は0か1の2進法ですので、高速処理に最適です。

一方、人間の脳は高度の判断に適しているので、高速処理事項はコンピュータにまかせ、高度判断事項は人間が実施、この組合せで人間の単純ミスを防ぎ、精度の高い共同作業が出来上がります。自動車自動運転システム、人工知能開発、宇宙探査システム等あらゆる分野で利用されて行くことに大きな夢を期待して終わります。

宇高連絡船

福寿会 武田 敬子

昭和53年2月、四国高松から名東区へ引っ越してきました。その当時は香川県高松港と岡山県宇野港を結ぶ宇高連絡船が1時間で航行していました。四国から本州に行きたい人は大勢利用していたと思います。

新婚旅行のカップルや転勤する人がいる時は万歳三唱や5色の紙テープを渡して別れを惜しんで、見送る人も見送られる人も手を振ったり、ハンカチを振ったりしたものです。ドラが鳴り棧橋が上がると蛍の光が流れてきて、テープがちぎれ海におちていきました。

高松港を出るとすぐ『桃太郎の鬼ヶ島』と言われている女木島が見えてきます。瀬戸内海国立公園の美しい島々を



眺めながら宇野港に近づくと、当時はハゲ山の直島が見えてきました。今では芸術の島になっているようです。連絡船がつくと橋がかけられデッキが開き急行「鷺羽」の座席をとるために宇野駅の

ホーム迄走って、乗り込む習慣がありました。

香川県の主な観光名所は屋島、栗林公園、金毘羅さん。金毘羅歌舞伎の金丸座の舞台装置はすべて人力で江戸時代の雰囲気があるそうです。

昭和63年4月瀬戸大橋が開通したので、宇高連絡船の運航は取り止めになりました。

電車や新幹線の見送りは、すぐ出発してしまうので、連絡船の別れは情緒がありました。

新婚旅行、転勤、里帰り、何度も乗った連絡船はいつまでも懐かしい思い出です。忘れてならないのが連絡船の売店の讃岐うどんです。お出しののにおいにつられて、毎回、家族揃って食べました。

現在、瀬戸大橋を渡る【快速マリンライナー】が岡山～高松間を55分で結んでいます。

でも、宇高連絡船は、私の中では、時々ですが、今も往き来をしています。

困った子ねえ

福寿会 田村 久美子

幼い頃（私が4歳、妹2歳位だったろうか）故郷の小さな町には、これと言った娯楽施設もなく、所々に商店街、映画館が4ヶ所。パチンコ屋さん等が点在するだけの記憶がする。

そんな田舎町にある実家は、当時当たり前の如く、家長の厳格な祖父が財布の紐をしっかりと握っていた。その祖父も、自分が好きなせいか、家族にも時々映画館に足を運ぶことを許してくれた。

それを知っている好奇心の強い母は、新しい映画の宣伝ポスターを目にすると、夕餉（ゆうげ）の支度を早め、化粧も少し念入りにし、ソワソワしだす。

その様子に子供心にも察しがつくようになり、不思議な思いをした。母の背に妹。2歳上の私は年若いお手伝いさんに手を引かれ、足早に映画館へ向かう。



その頃は映画の全盛期だったかもしれない。子供連れなので、内容も吟味したようだが、一度だけ、子供心には勿論、今でも忘れられないシーンがあった。

美しく若い男女が、人気（ひとけ）のない海辺で、眩しい程の肢体を水着に包み、両手を絡ませ顔を近づけていく。「お母さん、あの人達どうするの？」

「シー、これからが良いとこなの」顔をしかめて低い声で怒ったように私に言う。

後で知ったが、男性は石原裕次郎、女性は北原三枝という名前です。当時は、とても有名な映画スターだったらしい。その2人が、お互いの唇をくっつけたのだ。「お母さん、あれって何？」

小さな声で「接吻」と母。「何であんな事するの？」
「大人になると分かるわよ」。

成長と共に、男女の恋愛等は自然に理解できるようになったが、今では死語となった接吻、その言葉の美しさは忘れない。

おおらかな母のお陰で、次第に自分も恋愛に憧れながらの人生を送ってきた。

結果は言わずもがな。

懐かし我が家の TV チャンネル権

藤栄なごやかクラブ第一 山崎 やよい
昭和40年頃、まだ我が家は1台のテレビを囲んで楽しんでいました。大人も子供も観たいものも、それぞれで、誰の発案かは忘れたが、平等に7人であみだくじを引く事に。テレビのチャンネルに家族全員の名前と1週間の期間を書いたメモが張られチャンネル権が貰える。

その週は誰に遠慮する事もなくあの『夜のヒットスタジオ』の歌番組の歌手の衣装や 前田武彦と芳村真理の軽妙な司会も楽しめた。



時には裏番組で兄の好きなプロレス中継の力道山、ブラッシー対決や父の時代劇 赤穂浪士、など好きな番組が重なるとイライラする者もいた。こんな時は臨機応変、その時間の貸し借りも当人同士の交渉で成立可能！全く平和な取引となる。家族皆が、夕ご飯後に炬燵に所狭しと足を入れ体を寄せる。窮屈ながらも賑やかな娯楽風景だ。

後ろから観る者にテレビが見えないと言われ前で観るものは横に寝かせられた。腕枕の手は痺れる。この体勢で観る目も疲れる。区切りのコマーシャル迄はと頑張って観つづけた。命がけのテレビ観賞だった?! もう半世紀前にもなる話の事!

平成、令和となりテレビは各部屋と一家にも複数台。若者達、いや高齢の私達すら便利なスマホにより YouTube とやらで歌やドラマ映画、懐かしの映画すら楽しめる時代となった。

田舎育ちに娯楽の少ないあの時だからこそ、1台のテレビを囲んだ、あのチャンネル権ルールの我が家の団欒風景は、都会に住む私には今も懐かしい。

私の昭和時代

香流第三クラブ 竹内 勝彦

私の昭和時代で、一番記憶に残っているのは、小学校時代です。私の通った香流小学校は3年生までが香流分校、その後6年生までが丁田山（現在の猪高小）まで通いました。

道のりは現在のような舗装道路ではなく、未舗装の山道約2キロを超える道を徒歩で。

民家は10キロ以上1軒もない寂しい通学を。それでも、通学は楽しく苦痛は感じなかった。

遊びは山の崖を利用して、ターザンのまねをしたり崖を竹でスキー板状にしたもので滑り降りたりして不自由さは感じなかった。遊びには淋しい思いはしなかった。自然が道具になったからだ。川も今より水がきれいで、泳いだり、魚釣りを楽しんだりした。川以外でも、戦時中に焼夷弾を落とされ爆弾跡に出来た水たまりでも魚は多く釣れた。川から水田に水を引き込んでいたため、一緒に魚が流れ込んだためだ。

現在の子どもたちは、玩具はほとんど出来あがったもので、自分達で考えて作らなくても良いものが手に入る。

こんな子ども達に友人と一緒に作ってものを作り、遊ぶ機会がなくなってきている。私は昭和時代を決して不自由な時代であったとは思っていないのである。

私の昭和 縁故疎開

山の手クラブ 安福 勇夫

昭和20年3月26日未明名古屋大空襲があり、その日、偶然にも疎開地の岐阜県安八郡から東南の方向が明るく真っ赤に燃え上がる光景を眼にしました。3月末、父が自転車で名古屋から来て罹災したことが判かりました。

私は、昭和19年8月遠い親戚の家に疎開し、地元の福東国民小学校に2年生2学期に転入しました。親戚といえども先の見えない戦争に歓迎されたものではありません。田の字造りの大きな母屋の軒先に四畳半程の部屋を作ってもらい、母と兄、妹と私の4人が暮らしました。その家のものには決して手を出してはならないと言われており、庭先にカボチャがなっている、井戸にスイカが冷やしてあっても眺めているだけで母は食糧、焚き木の確保に苦労しました。焚き木と言えば、目の前の揖斐川に大雨が降れば流木を拾ってくるなど手助けをしました。



救いは対面の浄光寺の跡取り息子が私と同年でもあったためか、お庫裏さんには何かと親切にしてくださいことです。時には境内で私が妹を背負って子守していると”おやつ”を貰うなど楽しい事もありました。

今は寺の住職となるも親交があり、お墓参りに出かけ昔話をしています。

終戦の昭和20年10月には、焼け跡に父たちがバラックを建てたところへ疎開先から帰り、私も元の八熊小学校3年生2学期に復学しました。

私の国民学校時代

よもぎクラブ 岩佐 良男

私の生まれる1年前日本は国際連盟を離脱、3年後に日中戦争が勃発し不安定な時代に突入した。

昭和16年国民学校に入学した。この年の12月に太平洋戦争が起こり、校長先生から戦争が始まったことを全校児童に告げられた。

戦時下での教育を受けることになり、図画の授業で描くものは決まって戦闘機、軍艦、戦車などで、実物を見たこともないのに戦争に関するものばかり。体操の授業は木枝で作った木刀で相手を撃退する訓練ばかり。運動場は

一面芋畑に代わり「食料増産」という言葉が流行った。一方生活面では物資不足で衣服などは兄のお下がりや普通、穴が空けば母が繕ってくれた。履物は藁草履。遠足などの帰りには草履がすり減って履けなくなり裸足で帰ることはたびたびあった。



ズック靴の配給があったが1クラスに3足ほどの割り当て、くじ引きで決めた。武器を作る鉄材の不足で鉄製機器を供出させられ、家にあった火鉢、刀剣などを出した。お寺の釣り鐘も供出させられ淋しい思いをした。父が運送会社を経営していた。トラックに使うガソリン不足のため10センチほどの薪を燃料として使った。晴天の時はその薪の天日干を手伝った。潤滑油も不足し、ある植物の種から油を精製した。その種を山畑に播いて種を生産することも運送業の仕事だった。

5年生の夏の暑い日、玉音放送を聞いたが当時の私には放送の内容がよく判らず老婆が涙を流しながら聞いていたのを見てこれは大変なことが起きたと直感した。これが日本の敗戦終戦だった。

6年生の時は戦争に関する記述部分を墨で潰した教科書を使った。戦時下での怯えや緊張から解放され、これからは「自由だ」という言葉を覚え、国民学校6年生を昭和21年に卒業した。

このような不幸な時代が二度と来ないことを祈っている。

私の昭和、環境について

ひふみよ会 加田 正比古

エントツが林立する。空に向かって煙が競うようにモクモクと立ち上がっている。川の流れは、白く、まるで牛乳を流しているような。これが、町の中央に流れている妻木川。工場の休みの日には、透明な水が流れ、川に入り魚を捕まえ遊んでいた。家の近くの小川は、上流に豚舎があり、白く固まった物が水草につき汚いので流石に入れな

生まれ育った環境は今考えてみると、人が住めないのではと思うが、自分自身、楽しく過ごしていた思い出です。陶器の町、土岐市で生れ高校まで過ごす。

それぞれの町で、徳利、井、茶碗等作っており我が家では、鑄(い)込みといいますが、石膏の鑄型に泥漿

(でいしょう)泥状の土を流し込み、時間をおいてある



程度の厚みを確認し泥土を空ける。そして石膏の鑄型を外し、出来上がった器を板に並べ乾燥させて窯のある工場へ出荷。あまり儲からない仕事で生活は、節約することが小さい時から身についたようですが、今でも、というのはいけません。

SDGs(エスディーズ)をよく耳にしますが、昭和の時代、人間のわがままが通っていた感じがします。17項目の持続可能なゴールを目指し、皆が健康で楽しく暮らせる社会に為政者の方々には、人間中心の政治を期待するものです。教えに「体曲がれば影ななめなり」「人のために火をともしば・我がまへあきらかなるがごとし」とあります。私も少しでも環境を大事に、新型コロナに罹患しないよう、3密を守り毎日を有意義に暮らす所存です。

私の昭和、私の昭和時代

ひふみよ会 日比野 昌弘

私達昭和にこだわった同世代史を振り返ってみる。80歳も過ぎて思っで見ると父は明治、母は大正の生れであり昭和になって我が人生が始まる。家で一番偉いのは父親であり家族全員父の一声が怖く、

食事父が箸をつけるまでおあずけ、

国が父親の権限を保証していた様に思える。民主主義が発達し今では

お父さんが一番偉いのではなく間違うと粗大塵化になりかねない。

戦争が終わった後も、様々な形で生活の中に尾を引いた。規律や掟がきびしく礼儀作法がうるさかった。子供の遊び歌にも「イチレツ談判破裂して日露戦争はじまった。さっさと逃げるはロシアの兵、死んでもつくすは日本の兵…。」

思い出の分析/幼年時代~S19年~ 少年時代 S20~25年 青年時代 S32~37年 その後 S38~53~64

高度成長時代…語りつくせない程の思い出や出来事がある。幼少の頃は食糧事情も悪く統制経済下で

全国民が切符による割当配給により飢えをしのいだ思いがある。飯を腹いっぱい食べたかった、育ち盛りを思い出す。学生時代もメシをご馳走してくれるのが「いい先輩」であった。

生れた時の運が悪かったか、兵隊さんよ アリガトウ。国民学校1年生は声をあげて歌った。



昭和 20 年は 1 学期だけ戦時教育を受けた思い出がある。例えば敬語、目上の人には敬語を用いなければならない。社会人になって近頃の若い者は敬語をろくに使えないと云われる人種となって恐縮である。国民学校（小学校）には二宮金次郎の石像と御真影のある奉安殿があり登校すると必ず最敬礼をしなければならなかった。式の度に白手袋の校長がうやうやしく「教育勅語」を読み上げ、その間は全員が直立不動で頭を垂れて聞いていなければならない。「御名、御璽（ぎよめい、ぎよじ）」の声で終わった。知らずにガマンと礼儀を身につけたかも知れない。その他親孝行、忠君愛國は修身という教科で教えられ、こんな時代に「礼儀」ということを覚えたかも知れない。

社会人になってからも影響大である。又、若い人達を批判的に見てしまうのかも知れない。

私の昭和時代

上社げんき会 杉本 仁彦

昭和 10 年東区矢田町で生まれ昭和 49 年現在の社が丘に棲むまでに 18 回の転居をしました。父が国鉄職員で 2~3 年毎に勤務地が変わり官舎や借り上げ民家に移り住みました。

昭和 16 年に父が軍属で東南アジアへ鉄道建設に派遣され戦争激化で復員が遅れ、岐阜県大垣市に留守家族として 8 年ほど過ごしました。

その間、東南海地震・空襲・終戦、新憲法公布による六三制実施による国民学校、新制中学と大きな学制改革に巻き込まれ黒塗の教科書、旧制中学の受験準備の取り止め、食糧難で学校の運動場を耕しサツマイモを作った時代でした。

終戦直前の 20 年 7 月 24 日大垣市の中心部に大きな爆弾が落とされ多数の死傷者が出ました。後ほどその爆弾は長崎型原爆パンプキンの模擬爆弾で我が家から 600m の距離でした。

模擬弾で無く本物であれば 10 歳で私は終わっていた所でした。続く 7 月 29 日夜半空襲で市中心部全焼、我家は既での所で免れました。通っていた国民学校校舎は翌朝、明るくなってから燃え始め昼過ぎに全焼しました。大垣市は空襲の大きさの割に死傷者が少なく市の方針で消火するより皆退避するよう決めていたそうです。

8 月 15 日の朝、家の前の電柱に本日 12 時に重大放送が有ると張り紙があり、それは終戦の玉音放送でした。その夜からは電灯を灯してもよくなり複雑な気持ちでした。

嬉しかったこと、私は昭和 16 年の国民学校 1 年



生で泳ぎ始め昭和 63 年上社駅北のスイミングクラブでマスターズに出場し自由形と平泳ぎと競泳リレーで表彰台に上がった事でした。

昭和 49 年借金をして現在のマイホームを建てた頃の住所表示は千種区猪高町大字上社字池の浦でした。電気、水道、ガス、電話は整備されていましたが道路は未舗装で雨の日は大変でした。市バスも未開通で地下鉄本郷駅の西口階段には長靴が並び通勤者が靴を履き替え市中心部へ通勤していたのでしょう。上社は新駅工事中で本郷の次は一社でした。以上私の昭和の思い出です。

私の昭和

豊が丘第一元気会 岡本 稔子

歴史上最長となる昭和の時代が 64 年 1 月 7 日、天皇が崩御されるまで続きましたね。この時代を喜怒哀楽で語るができると思う。

喜。 34 年 4 月 10 日皇太子殿下のご成婚。民間から興入れされた美智子さまに日本中が絶賛、都内パレードを一目見ようと群衆の長蛇の列、テレビの前で正座して見ていたのは我が家だけだろうか。余韻の残る年でしたね。

怒。 今だ尾を引く太平洋戦争、日本中いたるところで戦火に見舞われる。今から 55 年前訪れた原爆ドーム、核兵器により被爆した建物が現存している。資料館で目にした光景、今も忘れられない。浦添市在住の友人の案内で訪れた今は平和記念公園になっている糸満市の摩文仁の丘、記念碑に刻まれた戦死名、後遺症の白血病で命を落とした方々、その数、数えきれず、自然と涙があふれ出ました。63 年の思い出です。長崎でも同じかと思えます。

哀。 忘れてはならない拉致被害、隣国の行動は世界でも類を見ない卑怯。歴代の首相の最優先課題に挙げられても今だ解決できぬ現状、御家族の心境は計り知れない。

楽。 待ちに待った新幹線、車窓の景色があつという間に過ぎ去ってしまう 39 年の出来事、と同時に世界に復興を示した東京オリンピック、10 月 10 日を待ち望みました。勤めていた商社の屋上から聖火ランナーを、拍手と声援で見送ったのを鮮明に憶えています。29 個のメダルを

獲得しましたね。東洋の魔女とよばれた大松監督率いる女子バレーチーム、体操日本チーム他メダルに係る種目が目白押し、楽しませていただいた 1 度目の東京オリンピックでした。



昭和という時代を 4 文字で綴ってみました。令和の時代、つつがなく過ごせるよう日々精進していこうと思う今日この頃です。

私の昭和時代 (昭和 20 年代)

忌々しいクオーター (人生の 4 分の 1)

平和が丘第三クラブ 利光 陸三

「ウオオウー」と父が叫び声をあげ倒れた！

オカさん (この頃は我が家では母を「オカさん」と呼んでいた) お父さんがライオンの様な声をだして倒れた！と言って、私は母のところへ駆け寄った。昭和 14 年春 3 月、私が 5 歳の時である。九州は大分の片田舎、我が家の居間の火鉢のそばで 3 ッ上の兄と父と 3 人で暖をとっていた朝の 8 時ころの出来事。父はこの時 47 歳で脳溢血で急死した。女 5 人男 3 人の子供を残して (この時上の 2 人の娘は嫁いでいた)。私はこの 8 人兄弟の末っ子。父の職業は村長だったらしい。5 歳になったばかりの私には記憶がないのでらしいと書く。葬儀は小学校の校庭で行われた。それから以後残された家族生活は質素儉約の日々がづく。

少年時代 (小 4 年頃) からの記憶は、あの忌々しい戦争時代である。昭和 16 年 12 月勃発した大東亜戦争「欲しがりません勝つまでは」「米英撃滅」「撃ちてし止まむ」等々の国民のスローガンを頭の中に叩き込まれた国民学校 4~6 年の時代。空襲々々で碌に学校授業も受けられず、防空壕の中で兄や近所の友達と草履作りをし、その草履が通学や日常生活に大事な履物であった。又私の町 (村) の周辺には軍用飛行場が 1 ッ、軍需工場が 2 ッあり敵機の爆撃の的だったし、町の民家には兵隊が分宿していた (S19・20 年)。その上、飛行場は我が家から 2 Km 余りのところにあり、空爆のターゲットになった。空襲警報が発令され母と防空壕の中にうずくまっていると「ヒューン」と耳が裂けるような爆弾が頭上を通過する異様な音に

怯える私に「心配するな、音が聞こえるのは爆弾が通り過ぎた時の音だ。この音が聞こえる時は生きている証拠だ」と震える私を戒める明治 25 年生まれの気丈な母を思い出す。



防空壕といっても現在の「シェルター」とは程遠く、家の裏庭に女・子供が鍬とスコップで穴を掘り (深さ 2m 余巾 2m 長さ 3m 程の穴の上に古材木を並べ上に蓆をかぶせ土を搔けた、爆風を避けるだけのお粗末な「塹壕」みたいなもの。

昭和 20 年 (小 6 年) の初めころ沖縄に米軍が上陸しており、九州にも近々上陸してくるので米軍が来たら竹槍で応戦するのだと、子供の我々も竹槍の突き方を真剣に習った。今考えれば恐ろしく馬鹿げたことだが、しかし私たちは真剣に練習をした。戦時中の話は尽きぬが、8 月 15 日終戦を迎えた。

翌年 3 月には我々は中学 (旧制) の入試が待ち構

えているが碌に勉強もしていない私は不合格だった。仕方がないので、当時にはあった高等小学校高等科 1 年 (小学校 7 年生) に進学した。しかし当時は (軍国主義から民主主義に急変時) 先生たちは教える教材に困惑していた時代。私の担当の先生は殆んど毎日のように「三国志」を読んで聞かせてくれた。私にはそれが結構楽しかった。

そのころ駐留軍の兵士がジープで町に来ると「ギブミーキャンディー」と叫びながらジープの後を追いかけた事もあった。

町にあった旧軍需工場が変身をした製氷工場で製造した、氷とサッカリンを混ぜて凍らせたお粗末なアイスキャンディーを仕入れ、自転車の後箱に積み「リーンリーン」とベルを鳴らしながら真夏の暑い中を売り歩いた。1 日 100 本売るのがやっとで、100 円の売り上げで 30 円自分に残る (但し溶けたキャンディー分は自分持ちだった)。夏休みの 15 日位続けた。

ある日は突然アメリカの飛行機が町の上空を旋回し、落下傘で救援物資のアメや菓子を投下し、大人も子供も我先に拾い食べた。

丁度そのころ初めての学校給食なるものが支給された。つまりララ物資で大型の缶詰めに肉団子である。一人 3 コずつ配給された。めちゃくちゃ美味しかった。生まれて初めて口にした肉団子の味は記憶にのこる。

この様に終戦 1 ヶ年が過ぎ、翌昭和 22 年新学期からは国の学生制度が 6.3.3 制にかわり、校舎も隣の旧小学校舎で私は新制中学 2 年生として新しい教育が始まった。思えばこの時分から私もようやく勉学に興味が出始めた。教育方針も教材も新しい内容で。そのころ野球と言う遊びを覚え、ボール 4 でフォアボールとかアウト



と言う用語も初めて知った。恥ずかしいことだが、それまでは英語は敵性用語として禁止されていた。新制中学になって 2 年間、自分の思春期なのか変化を感じた。音楽の時間に「埴生の宿」を教わり女先生が 2 節目は「半音下げる」と何度も何度も教えるが、我々生徒はなかなか上手く理解できず先生を困らせたことを思い出す。なぜなら、今まで軍国主義的な歌しか習わなかった。こんな静かな穏やかな歌などは無縁だったからだ。私は今でも時折この「埴生の宿」を思い出し口ずさむ事がある。

3 年生の秋には修学旅行 (昭和 23 年)。行先は豊後水道を船で渡り、四国の「金毘羅さんと広島原爆跡見学」だった。まだ食料不足時代で、参加者はコメ 3・4 合持参しないと旅館に泊めてくれない時代であった。広島の前被ばく跡ドーム周辺は 3 年前の

当時のままの様な荒涼としていた記憶が残る。

新制中学では生徒会の会長も経験した。卒業式には優等賞も授与され、ようやく平和というものを感じた。4月には新制高校、私は大分商業高校を受験し入学できた。入学したら幸いにも3年前に旧制中学に入学した同級生と肩を並べることができた。

高校の3年間は平凡に通過し昭和27年に辛うじて卒業できた。就学中に「商業簿記」「そろばん」の3級検定試験に合格することができた。

就職は私の願望で都会に出て働きたい希望が叶い、叔父さんの紹介で大阪の船場の繊維問屋へ入社(丁稚として)できた。この会社は明治18年創業の老舗で規律の厳しい会社で社会勉強や営業の厳しさを叩き込まれた。1年後に会社の名古屋支店への転勤命令を受け、これが人生の分岐路だった。思い出せば色々な語り尽くせない苦楽を味わい、1994年60歳定年まで無事42年の勤めを終え、定年後は異業種で18年間お世話になり78歳で約60年の現役に幕を下ろし引退。

今は名古屋が第二の故郷になり、現在3人の子供に6人の孫、さらに3人の曾孫に恵まれ、健康で平和な幸せな88歳。残された人生を皆さんに感謝しながら謳歌したいと思っています。

私の昭和時代 昭和と共に！

なごやか松寿クラブ 大川 成子
世はまさに百歳時代に突入しようという潮流の中で、昭和生れの最年長者も実に95歳を迎えました。その昔「人間50年化転の内をくらぶれば夢まぼろしのごとくなり…」信長が好んだ敦盛の舞の一節が去来しますが、そんな時代には長生きは人類の悲願でもあったと思うが、今や想定を超える長寿社会になった事で、晩節への不安の種が増え長生きをリスクと捉える風潮になっているのも事実です。教育、仕事、引退という従来のステージに代わり、リタイヤしてからの長い人生を如何に充実した日々にするかは、これからの昭和生れの私達が必然的に思慮すべき課題だと付度する所でもあります。

何れにしろ究極の問題は、健康第一と云う大前提が全てイニシアチブを握ると考えられます。その為にも、とに角、毎日の生活に感謝をして、常にプラス志向で明るく前向きに生きる事が実践の重要ポイントだと痛感している所以です。そして何か自身の好きな趣味を持ち努力を重ねていけば、或いは健康長寿に連綿して行けるのではないかと…但し特に趣味のない人もいるかもしれないが、他人の為にボランティア等に心を注ぐ事も素敵な生き方かもしれない。私自身もこの先、諸々の脈絡を踏まえて何等かの形で無理なく出来る範

囲の社会貢献をして行けたらと考えている所です。又、私の今迄の人生を振り返ってみると常に新しい事に果敢にトライしたスタンスがあったと思います。それは習字を始めとして油絵、洋裁、茶花道、ゴルフ、詩吟、パソコン、カラオケ等々、どれも時として没頭したり嬉々として取り組んできました。そんな意味合いからすれば高年大学も紛れもなく大きなチャレンジの一環だったと思います。そこで得た多くの仲間達との交流に一喜一憂した日々、大変良い刺激を一杯頂き、そして最終的に到達した短歌の世界。これは何歳になっても自身の心情を感動と共に詠んで行けるので、大変ベターな選択肢だったと自負している次第です…。



私の昭和時代

なごやか松寿クラブ 森下 俊勝

昭和19年4歳の秋、家族で囲炉裏を囲み寛いでいた時、電報が届いた。それを見た母は突然泣き崩れた。幼い私には母が何故泣いたのか理解できなかった。戦友が父の戦死を知らせてくれたと後で母から聞かされた。その時の情景は今も忘れることができません。若狭湾に面した漁村で高校生まで過ごし、険しい山道を歩いて山間の小さな分校へ通った。冬は背丈ほどの雪が積もり雪だるまのようになり、寒くて手足が凍えた。

峠には地藏堂があり、上り下りの人たちの憩いの場所であった。山ではアケビや松茸を獲り、夏休みは小舟で沖に出て魚釣りやサザエ等を取って遊んだ。盆や正月には厄払いや福を呼ぶ子供だけの行事があり、中でも一番の楽しみは地藏盆で、村の人たちが峠の地藏さんにお供えした牡丹餅を子供たちだけで分け合い腹一杯食べたこと。甘い食べ物でなかった時代の忘れられない思い出です。



昭和34年春、名古屋へ就職するため、住み慣れた故郷を離れ汽車に乗った。名古屋は日本の中心に位置し将来必ず発展すると考え、この地を選んだ。会社は納屋橋にある食品問屋で、昔から堀川を利用した物流の要所で両岸には問屋や倉庫等が点在していた。

昭和47年、アメリカの小売業の実態を調査する視察団に加わり1ヶ月間の視察を終え、その後、既存の小売業の総合力強化と多店舗化を図るため

スーパーマーケットの経営を紹介する仕事に携わりました。昭和50年、これが転機となり念願のスーパーマーケットを作ることができました。

振り返れば、幼少期は敗戦による戦争の傷跡が残り、着る物も食べ物もなく、就職期には鍋底不況と伊勢湾台風による大災害に見舞われ、事業を始めた年はオイルショック後の大不況で不安を抱えながらの門出でした。

険しい峠の山道を上り下りした、そんな試練を与えられた時代だったと思います。

山の講

なごやか松寿クラブ 山口 啓三

私の故郷岐阜県美濃市の八幡神社境内にある丘に「山の神」が祀られており、男子の小学生のみで「山の講」を2月と12月に行っていたことが幼少期の思い出となっています。

講は20日ほど前から、祭りで焚く杉の落葉や枯れ枝を神社の境内で集めることから始まります。数日前に町内や周辺の各戸を回り「山の講を祝ってください」と寄付を集めます。

この寄付金で講の前夜に上級生の家(当元)で五目ご飯



による食事会をします。そして8時頃には3年生以下を自宅へ送り返します。残った上級生でしめ飾りや赤飯のおにぎりを入れる「筒わら」という藁細工を家の人に手伝ってもらって作り、その晩はその家で雑魚寝で泊まります。午前4時ころ家の人に起こしてもらい、低学年生を集めて回り、子どもたちだけでしめ飾りを先頭に隊列を組み「山の神」に向かいます。

「山の神」に着くと事前に集めておいた杉の枯れ葉などで作った塔に火を入れて全員で「山の講祀った、花の下で祀った」と火を「花」にみたくて大声で夜が明けるまで何度も繰り返して唄うのです。そして夜が明けるころ神様のお下がりとして御神酒をほんの一滴いただき、赤飯のおにぎりをいただくのです。

小学生のみで夜中に丘の上で火を焚く祭りであり、現代では全く考えられない行事であります。しかしこうした経験を通じて私たちは成長してきたのですが、時代の趨勢で昭和30年代半ば以降行われなくなりました。

名東区にも名東本通に「山ノ神」のバス停があり、どこかに祀られているのではと地元の古老に聞いても知らないとのことでした。

しかし郷土史の「猪高村物語」によると、高針村にも「山ノ神」が祀られ、明治時代まで子ども

たちだけで「山の講」が行われていたようです。

昭和の良き思い出が、名東本通の「山ノ神」バス停を通るたびに甦ってきます。

昔遊びの会 牧の原小一年生の皆さんへ
おもとクラブ 石川 紘一

一生懸命書いてくれた、昔遊びの会のお礼の手紙、ありがとう。

とても寒い日でしたが、みんなが寒さに負けず、竹鉄砲でパーンと飛んだ紙玉を元気よく追いかけて、走りまわるのを見て、とても嬉しかったです。竹鉄砲は、どの子も見るとも触るのもはじめて。喜んでくれるかどうか心配でしたが、みんな、“やりたい、やりたい”と言って、上手く撃てた子も、できなかった子も、喜んでくれたので安心しました。なんでもそうですが、簡単なことでも練習しないと上手くできないのです。

おじいさんが子どものころ、今から60年以上昔ですが、遊ぶものは竹鉄砲もそうですが、ソリや弓矢、竹馬などみな自分で作りました。

小刀・鋸・金槌を使って、あちこちキズだらけになりながら、です。でも子どもは遊びの天才なので、空き缶があれば缶けりを、針金や水糸があれば魚釣りを、箆があれば小川で鱈などを掴まえたものです。古釘でさえも、遊ぶ道具でした。



みなさんの元気な顔を見て、昔の楽しかった遊びのことを思い出しました。

おじいさんの小学校も小さくて、学年は1クラス24人だけ、6生になった時転校しましたが、平成元年に、2年生の時の担任だった先生のお家でクラス会を、16人でやりました。

5年間一緒だった昔のクラスメートは、40年以上合わなくても、誰が誰だか判ったのです。

不思議ですね。あなたたちも、卒業するまでず〜っと一緒でしょう。おじいさんのように、将来先生を囲んでクラス会をやることを、約束してみてもどうでしょう。

しかし、大きな災害や、戦争があれば、約束をしておいても、できなくなることもあります。

そういうことも考えながらこれからも一生懸命生きて下さい。

最後になりましたがみなさんの幸せを祈っています。

平成29年12月17日

私の生き方の鑑は母

おもとクラブ 白川 淳子

私は18歳の時、父親と一緒に京都の西陣織物業者のところで、住み込みの生活を始めました。それまでは、信州八ヶ岳裾野の野辺山佐久広瀬、小鳥がたくさんいた、一本の農道に沿って、50軒余りある、落ち武者がひっそり生活するような片田舎で育ちました。

小学校は分校で、高学年になると、汽車に乗って本校に通いました。中学、高校も汽車通学で、小海・白田・中込・小諸と



続き、野辺山は鉄道の国内最高地点でした。東京からも近いので今ではハイカラに変わっていますが、特産の八ヶ岳花豆栽培は昔のままです。こんな田舎者が、父親と一緒に、手荷物とてない身軽ななりで、京都駅に降り立ちました。西陣織業者の息子さんが、車で迎えに来てくれました。

封建的な風潮の頃でしたが、ここでは家族同様の生活ができました。

女たちが、銭湯に出かけるときなどは、大お母さんやその娘さんなども一緒でした。湯気でいっぱい洗い場で、お母さんから石鹸を付けたタオルで背中を洗ってもらい、背中にかけたタオルの上から、湯船から汲んだお湯をかけてもらったときは、本当にスッキリして気持ちがよかったものです。休みの日には、長男のお孫さん達と御所デパートに買い物にでかけ、何もかもを珍しがると私は、「井の中の蛙」と言われていました。

私の母は、2016年に百歳のお祝いをシニアハウスで受けました。

母は、8人いた子供のうち成人した娘3人男1人の家庭の家から、手弁当で嫁探しに来て探し出されて、そこへ嫁ぎました。母の義父80歳、義母93歳、また私の父は93歳まで生きましたが、母は、義父母にもよく仕え、義母からは「ありがとう」の言葉をよくもらい生きるバネになったそうです。父は明治後半生まれの人でしたから、義父母は江戸期の生まれだったと思います。

母の白寿のお祝いでは、私の兄嫁が、兄弟姉妹の子供、孫、ひ孫たち27人を八ヶ岳の宿に集めてくださり、ひ孫からかわいいプレゼントが渡されました。その時、母は言葉少ないながら、車椅子に座ったまま、喜びを体全体で現わしてくれていました。

江戸期、明治、大正、昭和、平成の人生の勝利者の母、私の人生の鑑、みどりの母さんありがとう。

私の昭和、カムカムエヴリバディ

おもとクラブ 中嶋 朱美

私は旧満州国で生まれました。

満州国は北朝鮮とロシアに国境を接する中国の東北部に有り日本の敗戦とともに消失した国で当時多くの日本人が住んでいました。

祖父の会社を継ぐため父は結婚と同時に満州に渡り、その後、子供が次々と生まれて私は10人兄弟の8番目です。

やがて第二次世界大戦が始まり戦局が厳しくなっていました。けれども満州では空襲も無く食物も十分ありました。

ある日、学校から帰った姉たちが、今日、軍人の子供達や満鉄職員の子供達がみんな早退して帰ってしまったと不思議そうに話していて、その後すぐにソ連の軍隊が国境を越えて侵入してきました。

情報も入らず残された一般人はソ連軍侵入の数日後、玉音放送で敗戦を知る事になったのです。その後、残された日本人がどんな苦勞をして帰って来たのか私には詳しくは解りません。

持ち出しを許されたのは1人現金1000円と自分で持てるだけの荷物、残りすべての財産は残して来たのです。私も大きなリュックを背負い思わず後ろに歩いてしまった事を憶えています。

無蓋の貨物列車での移動、船がなく収容所で長く待った事などを経てやっとの思いで終戦後1年過ぎた21年秋に日本に帰って来た私達は母の実家の和歌山県に行きました。



小学校ではクラスメイトがみんな「カムカムエヴリバディ」を歌っていて、満州の幼稚園でロシア人やアメリカ人の事を「赤ひげ茶まなこ」と習い、天狗のような怖い顔のポスターを描かされ、英語は敵だと思っていた私は子供心にとっても不思議に思った事、すっかり忘れていたのですがNHKドラマの題名で、6歳の頃の気持ちをはっきり思い出しました。歌詞からアメリカ兵がチョコを子供達に配りながら歌っていて皆が憶えたのかなーと勝手に推測していたら最近のドラマの展開で、その頃ラジオで英語講座が始まりその番組の音楽だったと知りやっとな得致しました。

名東区なごやかクラブ連合会 令和4年度 事業計画(案)

本計画案は、1月の常任理事会で審議された結果です。

5月に予定されている、区なごやか連総会の承認を待って最終決定となります。

月	日(曜)	事業名	開催場所	担当事業部
5	16(月)	第39回グラウンド・ゴルフ大会	本郷公園	体育
	27(金)	令和4年度 区なごやか(連)総会	名東文化小劇場	総務
9	30(金)	高齢者交通安全総決起大会・同川柳大会	名東文化小劇場	健康福祉
10	17(月)	第40回グラウンド・ゴルフ大会	本郷公園	体育
12	21(水)~23(金)	第48回趣味の作品展	区役所講堂	文化
1	27(金)	健康づくり講演会	名東文化小劇場	健康福祉
開催月日未定		高齢者福祉大会	長島温泉	文化
		研修旅行	未定	文化
		第47回名東福祉大学校 教養講座	未定	社会
		健康エッセイ募集	—————	健康福祉
		区なごやか連リーダー研修会	未定	総務
5・6・10・1・3月		「なごやかメイト」発行・HP更新	全会員配布	広報

名東区の歴史探訪

郷土が生んだ武将、柴田勝家の生涯を表した、高社クラブ、宮地賢二さんの著作を、次回から数回に分けて紹介します。

広報部

理事会報告 区役所講堂

1月19日(水)

- 健康づくり講演会 コロナ対策の上開催を決定その後、感染急拡大を受けて、中止。
- 高齢者福祉大会(長島温泉) 中止と決定

2月10日(木)

- 「趣味の作品展」開催:応募2月末まで延長。
- 単位クラブ名簿データ化(市老連作成:利用可)
- 市補助金精算報告書の準備:事例説明

第47回 (令和3年度)

趣味の作品展



会場 名東区役所 講堂

会期 令和4年3月24日(木) ~ 25日(金)

名東区なごやかクラブ連合会

新型コロナ感染防止対策を徹底し開催予定

多くの方のご来場をお待ちしております

出品クラブ数 28 団体 4

作品出品者数 120

出品数 227 (2月10日現在)

編集後記

二月の古名は「如月」又の名を「梅見月」とも言い、春を待ち望む人々の心をほほえませます。一月中旬に京都に行く機会があり、上賀茂神社に参拝してきました。

前回訪れたのは十一月でしたので、素晴らしい紅葉に目を奪われて、それだけで満足してしまいました。

真冬の神社は鳥居や桜門の“朱色”がひととき目をひきます。

お休み処には湧き水でいれる「神山湧水珈琲」があり、庭のベンチに座って、綺麗に剪定された梅の木が、つぼみを膨らませているのを眺めながら、おいしいコーヒを味わってききました。

次回は満開のしだれ桜の時期に行きたいものだと密かに思っています。

岸田 周子